

第1回 八代市総合計画策定審議会会議録（要旨）

| | |
|------|------------------------------|
| 開催日時 | 平成24年8月10日（金） 午前10時～午前11時30分 |
| 開催場所 | 八代市役所5階 大会議室 |

■ 出席者

策定審議員

| | | | | | |
|-----|-------|----|--------|----|---------|
| 会長 | 宮川 英明 | 委員 | 濱 幸治 | 委員 | 瀧本 清子 |
| 副会長 | 川井 健次 | 〃 | 松本 圭司 | | 臼杵 壽 |
| 委員 | 秋元 一秀 | 〃 | 松永 松喜 | | 米田 常男 |
| 〃 | 村山 忍 | 〃 | 満島 進 | | |
| 〃 | 氏原 修一 | 〃 | 小寺 ヤエ子 | | |
| 〃 | 高浪 敦 | 〃 | 井山 九洲男 | | |
| 〃 | 福田 健二 | 〃 | 井上 篤子 | | (委員17名) |

地域審議会代表

| 地域 | 氏名 | 地域 | 氏名 | 地域 | 氏名 |
|----|-------|----|-------|----|-------|
| 八代 | 徳田 武治 | 千丁 | 福田 輝美 | 東陽 | 後村 新一 |
| 坂本 | 松本 良弘 | 鏡 | 猿渡 光次 | 泉 | 寺田 浩 |

関係機関アドバイザー

| 役職 | 氏名 |
|---------------------------|-----------|
| 国土交通省九州地方整備局熊本港湾・空港事務所 所長 | 大呑 智正 |
| 国土交通省九州地方整備局八代河川国道事務所 所長 | (代理) 緒方 勤 |
| 熊本県八代地域振興局 局長 | 五嶋 道也 |

■ 資料

- ・第1回八代市総合計画策定審議会 次第
- ・総合計画策定審議会構成名簿
- ・第1回八代市総合計画策定審議会 席次表

添付資料

- 八代市総合計画策定審議会設置条例
- 八代市総合計画策定審議会傍聴要領
- 八代市総合計画後期基本計画策定方針(平成25年度～平成29年度)
- 八代市総合計画策定組織図（後期基本計画策定組織の構図）
- 八代市総合計画・後期基本計画に係る基礎調査（概要版）
- 八代市総合計画後期基本計画策定業務 詳細スケジュール

■公開状況 公開

■傍聴者数 0名

■議事録

【会議内容】

1. 開 会
2. 委嘱状交付
3. 市長あいさつ
4. 会長・副会長選任
会長に宮川英明氏を、副会長に川井建治氏を選出（会長・副会長あいさつ）
5. 議題
 - (1) 策定審議会の公開について
 - (2) 八代市総合計画後期基本計画策定方針について
 - (3) 平成23年度基礎調査結果について
 - (4) 今後の策定スケジュールについて
 - (5) その他

【発言要旨】

●策定審議会の公開について

(事務局)

資料1「八代市総合計画策定審議会設置条例及」、資料2「八代市総合計画策定審議会傍聴要領」で説明。

質問・質問なし。全会一致で承認、原則公開で進めることで決定。

●八代市総合計画後期基本計画策定方針について

(事務局)

資料3「八代市総合計画後期基本計画策定方針(平成25年度～平成29年度)」、資料4「八代市総合計画策定組織図(後期基本計画策定組織の構図)」で説明。

(委員)

基本構想について、平成23年5月の法改正で市町村基本構想の策定義務は撤廃されたということであるが、なぜ撤廃されたのか。

(事務局)

策定義務の撤廃の経緯のお尋ねですが、国において地域主権改革を行っている中で、国から地方への不要な義務付けを廃止する、市町村の自主的な裁量に委ねるといった趣旨から改革がなされ、手続きや策定するしないについても市町村の裁量で決めて良いということで法律が改正されたものです。

総合計画が不要であるとか基本構想がいらぬといった趣旨からの改正ではありません。

(会長)

地方に自由裁量権を拡大させたという国の方針ということによろしいでしょうか。

(委員)

はい。

●平成23年度基礎調査結果について

(事務局)

資料5「八代市総合計画・後期基本計画に係る基礎調査(概要版)」で説明。

(委員)

市民意識調査結果の発表があり、小さなことまで見逃すことなく広い領域を感じたが、アンケートの回収率が意識の実態を苦慮させる元になっているのではないかといいた気持ちを持った。前回にくらべたらよくなっているということであるが、この回収率というのは葉書で返事をするということで1人1人の文化の程度であると考え。その辺から自分自身を見直していくというような心の持ち方の広がりを持ちあっていかなければいけないのではないかと所感をいただいた。

(委員)

要望であるが、資料の下の方にいろいろ文言が書いてあるが、文字が小さくて虫眼鏡で見ても見えない。せっかくデータを出してあるので、文字を大きくして欲しい。

(事務局)

大変申し訳ありません。大量のデータを出来るだけ枚数少なく載せようということで整理しましたが、見えないようでは仕方ないので、今後の資料作成については配慮させていただきます。

(委員)

意識調査の件でお尋ねがあったが、職員の意識調査の回答率がもうちょっと多くてもいいのではないかと思うがいかがか。

(会長)

総合計画を知っているかというところで、半分ぐらいがそれを意識しないで運営しているということが一番大きな問題であるということで、回答率もそこにつながっていると思う。せっかく市民の意見を聞いて、策定審議会を経て作りあげる訳だから、担当部署に関係したところは見えるところに置いて、どういうふうにして取り組んでいるというようなことでやっていかないと、作っても意味がない。委員からも質問があったようにそこが課題であると思うがいかがか。

(事務局)

ご指摘のとおりで、この調査結果を見て大変ショックでした。意識の低さがあきらかに解るが、職員の意識改革からまずやっていかなければならないと痛感しました。総合計画が通常の業務の中でどう活かされているか、仕事を進めるうえでの仕組みづくりに欠陥があったのではないかと。具体的に言うと、予算付けしながら事業を進めているが、予算要求の場合に総合計画にどう位置づけられているかを書くようにしてあり、それをもとに財政は予算を付けているが、担当職員の意識付けがなかったということです。今年から説明の中に行政評価とのリンク、予算とのリンクができるように後期計画ではその作り方からやっぺいこうということで、指標を数値化するとかを新たに組み込んでいくことにしています。前期でもある程度の指標が書いてありますが、もっと解り易い数値化をしていこうと、それを我々がきちんと評価していき、それを今年から始める外部評価をとという形で強化をしていく。その結果を予算、決算につなげていく仕組みを今年からやるということで取り組みを始めたところです。大いに反省をしてこういった改革をやっぺいきたいと思っています。

(委員)

今回、八代に関わるのは初めてであるが、アンケート調査ではだいたいこういう見通しだろうというものがあるからやることが多いと思うが、今回の意識調査の中で予想と異なったものがあったら伺いたい。また、結果の中に地域格差が広がったようなことが書いてあるが、想定されたことなのか、それに対してどのような取り組みをやったのか、各団体の意見収集の中に排他人間性の弱みだとか、一体感の欠如があげられているが、そういったものと関係するのか。

(事務局)

今回は五年ごとにおこなった定期的な調査であり、特段の事前の予想をしてやっぺいしたものではありません。うれしい誤算というのは、良くなったことの中に市職員の対応というのが、その点は挨拶運動等を

やっており、その点では評価をいただいたものと思っています。

地域格差について、今後住み続けたいですかと質問しておりますが、転出意向が高かったのが泉地域、東陽地域ということで特に東陽地域については高かったということがあり、合併した市町村間でも差が出たものです。各種団体のヒアリングで出た、排他的人間性、これは一般的な答えとして出ることがありますが、これとの関連ではないと思っています。泉、東陽で転出意向が多かったということの理由までは分析していませんが、13万人という目標人口を掲げているので、定住促進あるいはずっと住み続けたいと思っていただけるような施策を今後も重点的に打って行くということを掲げており、次の後期計画では重点プロジェクトの中で定住促進策というものを位置づけたいと考えています。

(委員)

前期の策定には参画していなかったが、これから後期の5年間の分で先程アンケートの説明があったが、10年計画で5年が経過し、その反省としては農業の分野が著しく低かったとか、文化に対する市民の意識が低かったとか、いろんな意見が出てきたが、前期5カ年の計画を立てたけれども、この点については計画倒れだったとか、あるいはなぜそうだったのだろうかとか、そういう反省を踏まえて次の5カ年間の策定に立ち向かわなくてはいけないと思う。

資料3の2ページに書いてある、5の中に計画策定にあつたての考え方が4つ示してあるが、市職員の意識も低かった、ではなぜ低かったのか、これからどうしようかということもあったが、問題点の深い究明がなされて、それに対して今後の5カ年にこういった問題にはこういった施策を実行していかなくては前期の5カ年と同じ繰り返しになるだろうと思うので、そういった意味で前期の5カ年計画で、なぜその計画が十分に達成されなかったのか、その点については我々が勉強する以外にはないのか、その点を伺いたい。

(会長)

次の審議会にはそこら辺を踏まえて出されるべきかと思うがいかがか。

(事務局)

先程説明を省略しておりますが、資料5の最後の14ページですが、基礎調査の成果と課題ということで、先程説明があつたとおり、職員の意識調査を見ても評価の低い項目があつた原因として、職員アンケート調査にある重点プロジェクトについてさえ職員の意識がなかったということ、行政評価システムについても意識が薄かったということで計画にもとづいて施策を進めていくという大前提となるものの意識付けに欠けていたということになるかと思えます。

前回の基本計画の中でも目標数値ということで指標の設定はしております、私どもとしても進捗管理はしております。達成されている項目、まだまだな項目ということで数字を本日は持ち合わせておりませんが、重点プロジェクトとして評価するようなシステムにはなっておりませんでした。と言いますのが、八代市でこれまで行政評価をやっておりませんでしたので個々の事務事業についてはどれだけ予定してどれだけやったという把握はしておりませんでしたし、それがどの程度施策として実行され、どういった効果をもたらしたのかといった評価設定もしておりませんでしたので、施策毎の実行状況をチェックする仕組みになっておらず、それを職員にさせるようなシステムもありませんでしたので、これを今回大きな課題としてとらえ、それを解消するために行政評価を導入し、それと連動した形の基本計画を作る。そして、それに基づいて予算付けをやっていくということで必然的に総合計画を意識しながら仕事を回していく仕組みを作りたいと考えております。その中ではしっかり重点プロジェクトを位置づけて、プロジェクトとして評価できるような、みなさんにお示しできるような指標を設定していきたいと思っております。

本日は成果と課題を示しただけで、解決策という形では示せませんが、今から基礎調査結果に基づいて案を策定し、次の審議会では諮問という形で審議をお願いしたいと思っております。

(会 長)

これからは反省を踏まえて仕組みづくりやシステム作りをしていくということですが、前期の5カ年計画について達成状況と出来ている所と出来ていない所について次の後期の5カ年計画でそれをきっちと踏まえて作らなければいけないということでの委員のご意見ということであったかと思しますのでそこはお願いしたいと思います。

(委 員)

いろんな計画がなされているが、資料として財政計画が全然あがっていないので、そこを心配している。何をやるにも金は伴うものであって、それに裏付けされた財政計画が資料として上がってこない、その辺は放っておいていいものなのかということと、先程、市民調査で東陽町と泉町の転出意向が高いということをおっしゃったが、このアンケートのちょうどその時期に保育園の廃止問題が住民に取り立たされていた時期である。それで保育園がなくなるようなところでは住めないという意識が強かったのではないかと申し添えておきます。

(事務局)

確かに財政計画と連動したというところではご指摘のとおりだと認識しております。財政計画につきましては市の財政課の方で今年度からさらに見直すとなっております。この総合計画と財政計画がリンクした形で作っていくということで取り決めをしております。先程説明した資料3の2ページのとおりです。予算の伴った計画を作っていくしたいと思います。

それから保育園の民営化の話もあっており、泉と東陽地域では定住意向が少なかったのではないかと、住み替えたいという意向が多かったのではないかと指摘でしたが、地域審議会でもご意見をいただきまして担当課でも保育所民営化につきましては再度皆様方のご意向を踏まえたところで見直しを行っている聞いております。

(会 長)

議題の3についてはいろいろ意見を出してもらいましたので、次回までに事務局の方で意見も参考にしながら案の策定に向けてやっていただきたいと思っております。それでは、次の議題で今後の策定スケジュールに移ります。事務局説明をお願いします。

●今後の策定スケジュールについて

(事務局)

資料6「今後の策定スケジュールについて」で説明。

質問・質問なし。

●その他

(会 長)

次回の内容が今日の報告以上に多岐に渡ることと思われるので、審議会の開催に先立ちましてできるだけ早く資料が委員の皆様が届いて、それぞれ目を通してこの会議にのぞまれるよう配慮をお願いしたい。

こちらで予定している議題は以上ですが、その他でせっかくお集まりいただいているのでご発言があればよろしくをお願いします。

(委 員)

農業が衰退していく現状を見せていただいたが、八代は農業が一番盛んな時期がありました。イ草が盛んな時期は八代の街も賑わっていた。そしてみなさんの経済状態も良かった訳であるが、イ草が衰退

してその後のつなぎ方に非常に問題があったのではないかと思います。郡築校区を見てみると、農業の生産者が非常に多く、設園芸が非常に盛んなところであって、後継者も1人も欠けていない、ほとんどが農業の後継者がいる。だから郡築校区は青年団が盛んである。イ草が衰退した後に何をつくらせるか、そこらあたりが、農業生産者が迷った時期があった。一般的に野菜を作ると暴落の中に入る。またいろんな問題化が起こってきて、肥料もだんだん高くなり、機械も導入が高くて難しいという状態が現状きている。

今、施設園芸もなかなか厳しいが、今年はトマトが高くて、野菜一般がよかったことで助けられている。どうにかしてこの農業の衰退をなんとかした方法で将来に救っていく方法はないものかと、先日東京に行って聞いたのが、八代市が流通生産の会社の方と東京の方でつながっていて販売の方もこちらの野菜を持って行くことで計画も立てているということを知りまして、非常にいいことだなと、そして、それを拡大して農家の皆さんの流通とか、今まで補助事業の問題も全部農協を通してやっていたが、八代市はやはり校区を通していろいろな説明会をやらせてもらえばみんなに知られるのではないかと、これは農業だけでなく、いろんな方法で情報を知らせていただく、そういうような策定の方法を今後は考えていただきたいと思います。

(会長)

市長の話にありましたように県南地域にフードバレー構想というようなものがあり、そういうことも含めて産業生産、農業生産をどういうふうにやっていくかということ、それと情報の流れを広く開示してほしいという二つの要望であったと思う。

(事務局)

農業をどうやっていくかという課題の中で、これまで八代市の施策としては農業をどう振興するかということで、作ることに重点をおいて、農地整備であったり、生産というところに重点をおいてずっとやってきており、その中でイ草が低迷し、なぜ生産が落ちてきたかということ、やはり流通で、売れなくなったというのが一つの原因であり、住宅政策の中でどんどん畳が減っていった中に売れなくなったということで畑作にどんどん替わっていますが、同じやりかたでやっていくとまた売れなくなったときどうするのかという課題があると思うが、そこで八代市の施策は、作ったのをどうやって売っていくかというところに視点を置いて、基盤整備も大事だが、後継者育成にも力を入れながら売っていくことに力をいれて、昨年度、組織改革の中でこれまで農業政策課と農地整備課と二つの課でしたが、農業生産流通課ということで流通の名前を付けた課を作りました。

また、流通というのは商業経済活動の中でやるということで営業本部という組織を作りまして売の方も連携してやっていこうということで組織をしました。そのような中で委員からお話がありました、これまで東京の県の事務所に1人置いておりましたが、今東京に2人派遣しており、それと大阪と福岡にも1人ずつ今年から派遣していろんな企業さんを訪問しながら売る場所とか流通の仕組みとかを一生懸命やっております。

また、会長からフードバレー構想というお話がありましたが、今年度、蒲島知事が二期目ということで、県の方で4カ年戦略、市で言いますと総合計画であり県の方向性を示すものですが、その中にフードバレー構想というのが大きくとらえられて、これは食品に関連した生産、流通をトータルで考えてやっていこうという構想ですが、行政と民間と学校あたりにご協力いただきますが、産学官が連携して、要は研究室だったり売る施設だったり、流通施設だったり、そういったものをトータルで考えていこうというものです。

それに県としては八代ということをしっかり謳ってもらっている。つまり、八代市が拠点になるということで考えてもらっている。我々も指をくわえて待っているわけにはいかない。特に八代自体が頑張っていてやっていかないと、県としても進めていけないということで我々の中でもプロジェクトを作ってこ

れに対して対応を進めております。県と八代市と氷川町も勉強会をスタートしており、これをチャンスととらえて農業というくくりの中で大きく変わっていくのではないかと、また一つ八代港というのも全面に打ち出しし、海外拠点も大事であるということでやっております。これからは、作るだけでなく売るという視点を持って農業を振興していく、その中では経済界も一緒になってやっていかないとまわっていかないので、今後5カ年計画の中できちんと打ち出しながらやっていきたいと思っています。